

たかが箸の持ち方、 されど正しい箸の持ち方



久田 順子

私は五人姉妹の長女です。末妹が産まれた翌年、父が亡くなり、母と五人姉妹で卓袱台を囲み、食事をすることになりました。ところが、なぜか食事どきになると、末妹がウンコをします。その後始末をするのが、私、長女の役目なのです。母の命令によりさせられたのです。匂いもするし、手も汚れてしまいますので、嫌で嫌で仕方がなかったのですが、従わざるを得ませんでした。

その食事時に、箸の正しい持ち方や使い方、茶碗の持ち方、飲み方、姿勢を正しくすることを、母から躰られました。

叱られ、強制されたのです。おかげで五人娘は、正しく箸を持ち、行儀よく食事をすることができるようになりました。子どもの頃から、日常生活の中で適当な学習ができたからこそ、大人になって苦労することはありませんでした。今となっては、親の強制に感謝しています。

翻って現代社会を見ても、正しく箸を持つことができ

人生になっていくものではありませんか。

独自の精神文化を持つ日本人。外国からは常に憧れと、羨望の目を持たれています。今、その世界に誇るべき文化を、私たち日本人は、いとも簡単に捨てようとしています。

世界の食事ひとつとってみても、箸で食べる、フォークで食べる、手づかみで食べる、他にも男の食事を女は見えてはいけな、などなど千差万別です。その違いが文化なのです。現在は、男の脳と女の脳との違いも科学的に解明されつつあります。違いを認め合う共存の社会にこそ、真の幸せがあるのではないのでしょうか。

三十年ほど前「天を男女が平等に支えるある国」を訪れました。そこでは「子育ての社会化」のシステムが完成しており、育児に専念するという選択肢は許されません。日本は選択できるのです。安易に「子育てのプロ」という名の外注化に走り過ぎていないでしょうか。ある母と子が、ゆっくりとした休日、食事のテーブルを囲みました。その時、子どもが「お母さんのどがスキップしているみたい」と話したのです。私は感激の涙でした。

親が子育てを放棄し、人間教育の根本である家庭教育が疎かになってしまおうと、心の健全な発達は望めません。冷酷で合理的、効率優先の人間を大量生産してしまっただけです。明治時代以降の日本は、人間教育軽視、知識・技術教育偏重で進んできました。特に親になるための学びは、生まれた直後から日々

る高校生の割合は、六十パーセントです。この数字は多いのでしょうか？少ないのでしょうか？いずれにしても四割の高校生が、箸の持ち方・正しい使い方の形を知らないという現実、重く受け止めないといけないと思います。この高校生の大半は、親から教えられず、また躰られていないのでしょうか。親は、親たる責任を果たしていないのです。これらのことから、子育てにおいて、途中で矯正することの難しさ、最初から正しい教育をすることの大切さが非常によくわかります。

「努力によって得られた習慣のみが善である」「正しい人と人との間で生活する意味が、そこにはあります。

「生きる力を育てる」という大義名分のもと、役立つことのみ身につければ良いという風潮を生み出しています。このような直線的思考では、せっかくの人間サマなのにモッタナイです。天から与えられた一回きりの人生、一つだけの生命です。お金にはならない、お金には代えられない豊かな修養で魅力的な人間になりましょう。子ども時代の基本的学習は、生涯を通して積み重ねることができる土台となります。

正しい箸の持ち方のできない大人は、魅力がありません。相手を尊重する心が養われていないからです。行儀作法は、相手への敬意を表す方法として生まれ、伝えられていきます。モノやカネを手に入れることを最優先にする価値観の中に生きている人たちは、より個人的に、より自分らしく生きていると思込んでいる人たちは、豊かさの本質からかけ離れた淋しい

の生活の中で学習していきます。流行の個性重視・個性尊重の自由な環境ではダメです。伝えるべきものの強制からすべての教育は始まるのです。

生涯を通じて、完全なる人間にはなれません。しかし理想を目指して努力することはできます。その地道な努力こそ、気高く美しく、そして本当の力になるのです。「正直」、「真剣」、「温かい心」、「優しい心」、「ありがとう」、「感謝」など、良い言葉の世界の住人となり、品格を高めることです。

荒廃を極める教育現場を象徴する、教師の精神疾患休職が、十年前の三倍にあたる約三千五百名にのぼるといっています。この先生たちは、正しい箸の持ち方、使い方ができていたのでしょうか。規範教育が身につけていたのでしょうか。

たかが箸の持ち方、されど正しい箸の持ち方です。偉大なる母に心からの感謝をしつつ、校長職二十六年間。この「大海の一滴」の教育を愚直に歩いてまいりました。これからも歩み続けます。

(久田学園佐世保女子高等学校長)

